

令和7年度 学校評価に関するアンケートの結果と改善策について

1 学校評価アンケートについて

○職員、保護者、児童生徒に対して、Microsoft Forms によりアンケートを実施。

○実施期間は令和7年11月7日(金)～11月17日(月)

○アンケート回収数(回収率)

- ・職員:回収数48、回収率96%(昨年度 100%)
- ・保護者:回収数26、回収率90%(昨年度 89%)
- ・児童生徒:回収数36、回収率 70%(昨年度78%)

2 アンケートの集約結果について:資料1、2を参照

(1) アンケート結果の分析と改善策の検討

○分析の対象

・資料1、2のカラーで表示されている結果

<黄色>昨年度との比較により、平均値が顕著に下降(0.5ポイント以上)した項目

<ピンク>各項目の平均値が一定の基準値(教職員及び保護者:2.5ポイント 児童生徒:2.0ポイント)を下回った項目

<青色>黄色とピンクの両方に該当する項目

(2) 具体的な改善策について

① 職員アンケートについて

	内容
項目3 項目6 項目7	・学校は、児童生徒に付けさせたい力を明確にし、教育実践に取り組んでいる。 ・学校行事は、児童生徒の実態に応じて、活動内容が創意工夫されている。 ・学校は、他の専門機関(医療、福祉、教育)と連携を図りながら、教育活動を実践している。
改善策検討の理由	寄宿舎が【条件2】に該当
改善策	・寄宿舎生に関しては、当該生徒の目指す姿と、その育成に向けた方針・対応等について、各部の教職員と寄宿舎指導員との一層の共通理解を図る。具体的な方策として、①相互の個別の教育支援計画に基づいた「学舎担当者会」の更なる充実、② 個別の指導計画(自立活動)の目標検討会(1学期)及び評価会(3学期)への寄宿舎指導員の参画、③学校行事や普段の授業の参観を積極的に呼びかける等が考えられる。
項目9	・交流及び共同学習(居住地校交流、学校間交流、壮寿会交流など)の計画が継続的に行われている。
改善策検討の理由	本校中学部が【条件2】に該当
改善策	・高等学校進路希望の生徒、もしくはI課程の生徒は、交流学习の参加を基本とする。3年間の見通しがもてるように中学1年生は文化祭や合唱コンクールなどの行事交流、中学2年生は学級単位での授業見学やオンラインでの合同授業、中学3年生では授業への参加など段階を追って集団参加できるように計画していく。 ・病状の改善・回復が見込まれ、居住地の小中学校へ復学を目指す(復学の可能性も考えられる)児童生徒についても、居住地校交流の意義・必要性について、進

	路面談等を通じて保護者へ説明し、理解を求める。
項目10	・おいしく、栄養バランスが取れた給食・舎食が安全に提供され、児童生徒の実態に応じ、正しい食習慣(準備、マナー、食べ方、後片付け等)を身に付けさせる指導が実践されている。
改善策検討の理由	分教室が【条件1】【条件2】に該当
改善策	・児童生徒の良い行動や言動があった時に積極的に褒め、苦手なものも食べようとする気持ちを育てる。 ・バランスの良い食生活やマナー等を学園とも情報交換しながら指導できそうな内容について検討していく。
項目22	・学校は、保護者や地域の人が来校しやすい機会を設けるなど、「開かれた学校づくり」に取り組んでいる。
改善策検討の理由	分教室が【条件2】に該当
	・分教室の児童生徒は、様々な法的制限や配慮の下に学校や施設での生活を送っている。地域への情報発信や交流等については、椿の森学園との協議・助言等を踏まえて実施可能な活動等を探っていきたい。

② 保護者アンケートについて

	内容
項目30	・寄宿舎は、学校、保護者との情報交換を図り、適切な対応に努めている。
改善策検討の理由	寄宿舎が【条件2】に該当
改善策	・保護者からの連絡や伝言等については、学校と寄宿舎との間で確実に報告・共有し合うことに努める。 ・寄宿舎、学校、保護者が、より一層緊密な連携を図りながら、当該生徒の成長・発達に向けて各々が役割を果たす。

③ 児童生徒アンケートに関して

項目	具体的評価内容
項目 6 7 10 11 12 13 14 15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、自分が困ったときや失敗をしたときに、よく話を聞いて、わかるように良いことと悪いことを教えてくれる。 ・学校は、安全に気を付けること(交通ルール、火災や地震からの避難の仕方、不審者から身を守る方法など)を教えてくれる。 ・給食の時間を楽しみにしている。 ・学校は、いつもきれいで、気持ちがよい。 ・児童生徒会の役員会や委員会、小学部集会や学級での話し合いなどでは、自分の意見を発表することができる。 ・校外学習やあかね祭などの学校行事を楽しみにしている。 ・学校での学習で自信がつき、どんな場所でも、みんなと一緒に学習できるようになった。 ・学校に行くのが楽しい。 ・大村特別支援学校は、自分にとってここで学べてよかったと思える大切な学校である。
改善策検討の理由	分教室中学部が【条件1】に該当
項目 1 2 3 4 5 14	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、自分のよいところをほめてくれる。 ・先生は、授業をわかりやすく、ていねいに教えてくれる。 ・先生は、困ったときに相談しやすい。 ・先生は、集団生活のルールやマナーについて教えてくれる。 ・先生は、進路や将来の生活について、わかりやすく教えてくれる。 ・学校での学習で自信がつき、どんな場所でも、みんなと一緒に学習できるようになった。
改善策検討の理由	項目14:分教室小学部が【条件1】【条件2】に該当 項目1、2、3、4、5:分教室中学部が【条件1】【条件2】に該当
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・分教室の児童生徒の実態として、その特性や自己肯定感の低さもあり、ありのままの「自分」に向き合うことから回避したいと感じている。児童生徒ができたことをその都度伝えたり、振り返りをしたりして自己肯定感を高める取り組みを継続する。 ・児童生徒自身の自己評価には必ずしも反映していないが、昨年度に比べて、学習に向き合えるようになり、話し合いができた、行事に参加したりする児童生徒が増えており、分教室の教職員は確かな手ごたえを感じている。さらには、学校での不穏対応も減り、落ち着いて学校生活を送ることができつつある。そのことを分教室の教職員をはじめ、椿の森学園とも共有し、大人が総がかりで子どもたちの自信を高めるかかわりを続けていく。

(3) 自由記述に関すること

教職員、保護者、児童生徒から以下のような意見・要望があげられた。

① 教職員

- 進路先に関する情報や資料等の提供の工夫
- 医療との連携の更なる充実
- 働きがい改革に関すること(業務へのモチベーションの維持・向上、心理的サポートの充実)
- 教材教具、教室環境の整備
- 育友会活動の充実

② 保護者

特になし

③ 児童生徒

- 施設設備の衛生面(トイレのにおい対策)
- 次年度の担任交代への不安

